

『放射線と免疫・ストレス・がん』

正誤表

標記書籍(2015年12月11日 第一版 第1刷)に下記の通り誤りがございましたので、ここに訂正しお詫び申し上げます。

(2015年12月17日)

1) p.7 下から2行目

研究者にはとって → 研究者にとって (「は」を削除)

2) p.27, 27行目

第3回 → 第5回

3) p.206, 図 3.29

ヒトNK細胞の放射線感受性の3つの型とその伴性遺伝 → (「とその伴性遺伝」を削除)

4) p.251 図 4.2

(1958-1964) → (1958-1968)

5) p.252, 17行目

図 4.2 → 図 4.1

6) p.258, 14行目

Box 4.2 → Box 4.1

7) p.291, 4行目

(H-2D^{d/d}、B10.BR、H-2D^{k/k};R107、H-2D^{d/d}) → 最初の H-2D^{d/d} を削除して (B10.BR、H-2D^{k/k};R107、H-2D^{d/d}) とする

8) p.392, 11行目

はたしているものと考えられる → はたしている ことを示唆している

9) p. 393, 図 6.10 の説明文中、

A. の1行目「リンパ系細胞 (——)」を「(----)」に

B. の2行目「養子移入 (——)」を「(----)」に

10) p.447, 図 7.12 の説明

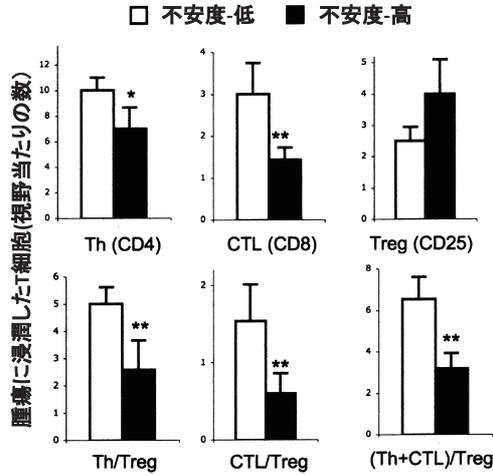
B. の説明の最後に □, 対照群 を追加

11) p.449, 10 行目

生体が抗原刺激を受けると → 生体がストレス刺激を受けると

12) p.452, 図 7.16

図差し替え



15) p.455, 図 7.17

図と図の説明文差し替え

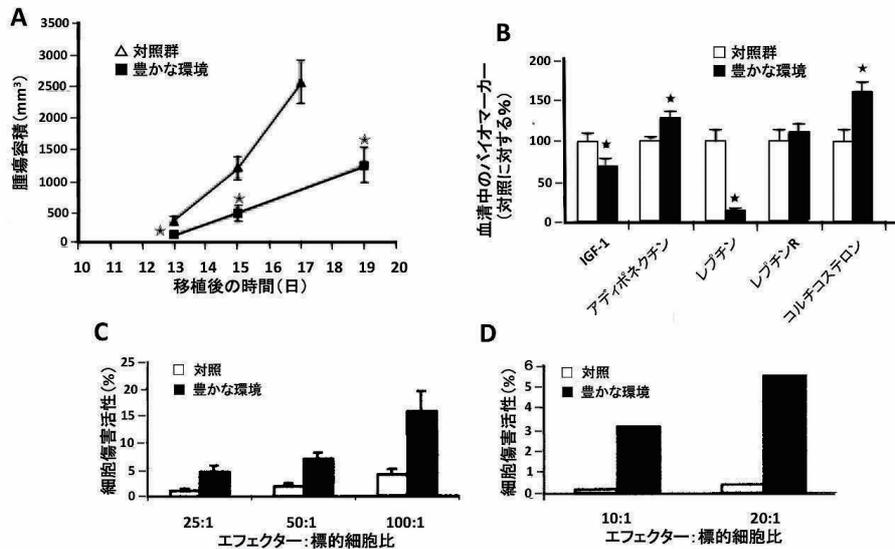


図 7.17 豊かな環境における移植腫瘍の増殖抑制と血清中のバイオマーカーおよび免疫活性の変化

(Cao ら, 2010)¹²⁸. 豊かな環境では同系マウスの移植腫瘍の増殖が抑えられ (A)、血清中のバイオマーカーに特徴的な変化 (IGF-1 とレプチンの有意の低下およびアディポネクチンおよびコレチコステロンの有意の上昇) が認められ (B)、NK 細胞 (C) および CTL (D) の標的細胞傷害活性が増強された. ★: 有意差あり.

16) p.457, 9 行目

恵まれた環境 → 豊かな環境